

# 民主化闘争情報

No. 911  
2014年10月21日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

トラブルが多発しているJR北海道については、国会やマスコミ報道等で「歪んだ労使関係」の実態が指摘されているのは、既報のとおりであるが、JR北海道・島田社長が、就任半年を迎えた新聞紙のインタビューで今後の労使関係について、JR総連・JR北海道労組との蜜月関係の清算を示唆している。

またこうした会社の対応に、第一組合であるJR総連・JR北海道労組は、「一般化されたことに違和感」などと不信感を強めている。

## JR北海道・島田社長

**「社会の目線にこたえる開かれた労使関係にしなければならない」  
JR北海道労組との蜜月関係の清算を示唆！」**

就任半年を迎えたJR北海道・島田社長は朝日新聞社のインタビューで、労組問題をめぐる問題を指摘され次のとおり答えている。

「会社再生への思いは共通している部分があると思う。われわれが気づかない問題提起をしてくる場合もある。

**社会の目線にもこたえる、開かれた労使関係にしなければならない。労組の意見に耳を傾けるが、最終的には会社の責任で実行する。これまでそうした面が欠けていた**(朝日新聞 2014.10.17)」

この間、国会でのJR北海道問題集中審議やマスコミ報道等では歪な労使関係等の是正の必要性を論じてきた。今回の島田社長の発言はこうした指摘を踏まえ、事実上、第一組合であるJR総連・JR北海道労組との蜜月関係の清算に向け、会社側の強硬な姿勢を示した。

## JR北海道労組「『労働組合』と一般化されたことに違和感」

### 【JR北海道労組・鎌田委員長】

1つ、残念なことがあります。今日は、JR北海道の最大課題である「安全」がメインの集会で、会社が新体制になって初めての安全集会です。なぜ、島田社長がお見えでないのか。社長は、以前、労務担当役員をされ、労と使は車の両輪として機能することが大事だということを十二分にご存知だと思います。この苦難を共に乗り越えていく思いが薄まってしまったのでしょうか。

**「組合への強硬な姿勢が評価されて社長に就任」という巷の俗説もあるわけです。**  
(旬報ACCESS 404号)

(JR北海道島田社長の挨拶に対して)来賓が私達を呼ぶ場合、「貴労組」とか「JR北海道労組」と言うのが普通ですが、**「労働組合」と一般化されたことに違和感を覚えました。**  
(旬報ACCESS 406～407号)

第一組合のJR北海道労組は、会社の毅然とした対応に不信感を強めるとともに、従来の蜜月関係、すなわち過去への回帰を哀願している模様である。